

令和7年度 自己点検・評価書

令和8年7月

佐賀大学

総合分析実験センター

目次

目次	2
1. 現況及び特徴	3
2. 目的	5
3. 領域別の自己点検評価	7
(1) 教育支援の領域	7
(2) 研究支援の領域	9
(3) 国際交流及び社会連携・貢献の領域	12
(4) 組織運営の領域	14
(5) 施設の領域	15
4. 外部評価	17
5. 明らかとなった課題及び課題に対する改善の状況・方策	18
6. 総括	26
7. 業務等集計データ	28
(1) 研修・教育訓練	28
(2) 作業環境測定	29
(3) 開催セミナー・デモ機設置等	30
8. センター利用実績	32
(1) 令和7年度利用実績の概要	32
(2) センター利用実績の動向	32
(3) センター利用者の業績	36
(4) センター施設及び設備・機器利用実績	39
(5) センター教職員による業績及び外部資金	44

1. 現況及び特徴

佐賀大学総合分析実験センターは本学における教育研究の総合的支援を目的とした全学共同施設である。本庄地区と鍋島地区それぞれに「生物資源開発部門」、「機器分析部門」、「放射性同位元素利用部門」および「環境安全部門」の4部門を設置している。

平成14年4月1日に、社会的な要請度の高い生命、環境、材料等の研究やこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を総合的かつ効果的に支援する体制を構築するために、「機器分析センター」、「放射性同位元素実験室」を、それぞれ「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、さらに、新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立された。平成15年10月1日の佐賀医科大学との統合にあたり、同医科大学の動物実験施設、実験実習機器センター、RI 実験施設を加え、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」および「放射性同位元素利用部門」の3部門からなる全学的な研究教育支援施設となった。さらに、平成18年度に「環境安全部門」を新設し、これらの4部門が連携して学内の理工、農、医、教育学分野の研究教育を総合的に支援している。各部門は、佐賀大学の本庄地区と鍋島地区にそれぞれに配置されている。令和7年度はセンター長(併任)、副センター長(併任)、教授(併任)1名、准教授3名、助教2名、教務員2名、技術専門職員6名、技術員2名、非常勤職員(技能補佐員、事務補佐員)5名から構成されている(図1総合分析実験センターの構成および人員配置を参照)。

総合分析実験センター4部門が担当する支援業務を以下に列挙した。

■ 生物資源開発部門

遺伝子組換え実験等と動物実験に関する教育、研究、講習、教育訓練および安全管理ならびに動物福祉に配慮した実験動物の飼育管理

■ 機器分析部門

大型高性能分析機器類の維持管理、総合的な分析・測定に関する教育と研究、分析機器の使用講習会および教育訓練

■ 放射性同位元素利用部門

放射性同位元素等の利用に関する教育と研究、放射性同位元素等安全取扱講習会および安全管理

■ 環境安全部門

環境分析機器の安全管理と教育講習、環境整備および環境分析に関する研究の支援、環境問題に関する共同研究の受入れおよび相談窓口、環境問題についての教育および情報提供、および学内環境安全業務（リサイクルファシリティ、作業環境測定（有機溶剤、特化物））

センター長 教授（併任）				
副センター長 教授（併任）				
部門	キャンパス	教員	技術系職員	技能補佐員
生物資源開発部門	本庄	教授（併任） 1名 助教 1名		
	鍋島	准教授 1名 助教 1名	技術専門職員 1名 技術員（再雇用） 1名	4名
機器分析部門	本庄	准教授 1名	技術専門職員 2名 技術員 1名	
	鍋島		教務員 1名 技術専門職員 2名	
放射性同位元素 利用部門		准教授 1名	技術専門職員 1名	
環境安全部門			教務員（再雇用） 1名	
事務補佐員 1名				

図1 総合分析実験センターの構成および人員配置

配置図においては本センターwebpageを参照(<https://www.iac.saga-u.ac.jp/aboutus/>)

2. 目的

佐賀大学総合分析実験センターは本学における教育研究の総合的支援を目的としており、4部門が機能的に連携して学内の研究教育を総合的に支援することで、本学における生命、環境、材料等の研究およびこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を目指している。

総合分析実験センターの第4期中期目標・中期計画は以下の通りである。

■ 中期目標

国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る

■ 中期計画

研究機能の強化・拡張を図るため、全学的な支援を得つつ、外部資金の戦略的な獲得、研究機能の強化に向けた研究設備の充実や組織改善等の取組を行い、各研究施設の特性に応じた国内外の大学や研究所、産業界等との人的交流や施設設備の共同利用等を推進

以下に、第4期における本センターの現状および課題を記す

- ① 共用推進: 令和4年3月に文部科学省が定めた「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」に従って、本学における共用推進を先導する必要がある
- ② 研究設備の充実: 学内外の研究者が容易に活用できるように、共用研究設備の充実を図ると共にその維持を図る必要がある
- ③ 組織改善等の取組: ガイドラインに沿った改革のために、現在の組織を改善する必要がある。特に、技術職員等の活躍のための環境整備が必要である
- ④ 外部連携・外部資金: 設備の利用を通して、地域・産業界との連携及び人材交流の基盤強化が。また、外部資金獲得増により教員の研究力を強化し、支援への活用が必要

以下に、課題に対する取り組み(第4期中期目標期間)を記す

- ① 共用推進:ガイドラインに従い、まず、研究設備・機器の組織内外への共用方針を策定・公表する。次に、研究設備・機器の共用推進のための、より改善したシステムを構築する。更には、PDCA サイクルを回すことで、構築した体制のシステムの改善を行う。その方策として、以下の2と3が鍵となる
- ② 研究設備の充実:ガイドラインに従い、①経営戦略における明確化・共用の経営戦略への位置づけ、②「戦略的設備整備・運用計画」の策定、③財務の観点からの整備・運用体制の改善を行い、研究設備の充実・維持を図る。
- ③ 組織改善等の取組:ガイドラインに沿って、④「統括部局」の確立、⑤「チーム共用」の推進、⑥人材の観点から技術職員等の更なる活躍のための環境整備に取り組む。
- ④ 外部連携・外部資金:研究設備の学外開放を展開し、様々な取り組みにより、地域・産業界との連携及び人材交流の基盤を強化。外部資金獲得増による支援力強化も図る

3. 領域別の自己点検評価

(1) 教育支援の領域

(ア) 教育支援環境及びセンターが行う教育に関する事項(使用法、安全、規則等に関する教育)

総合分析実験センターを基盤として、実験機器類および生物資源の維持・開発と放射性同位元素利用に関する設備の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境の整備を実施した。また、総合分析実験センターが関わる施設・機器の使用法や法令・規則等の教育に関して、教職員や学生及び関係者に対して必要な教育活動を行い、その教育訓練体制の整備・改善を図るため、以下の事項に取り組んだ。

【継続して取組んでいる事項】

1. 既に作成済みのマニュアル・手引きについて、更新が必要なものは随時更新を行っている。
2. 「動物実験に関する教育訓練を学内の「動物実験委員会」と連携し、希望者に対して、随時、実施している。また、動物実験の実験計画書の作成の相談、指導、事前審査、受付業務を行っている。
3. 本庄地区および鍋島地区における遺伝子組換え実験に関する教育訓練を日本語と英語で行っている。今年度から新たに中国語(簡体字)を加えた。また、適切な遺伝子組換え実験申請書を提出してもらうために、提出前の内容確認を行っている。
4. 放射線および放射性同位元素の取扱に必要な放射線業務従事者講習会は、本庄地区と鍋島地区でそれぞれ行っており、どちらの地区でも受講できるようにしている。
5. 放射線業務従事者登録のため、本庄地区では、新規登録申込者に対する教育訓練は年2回行っている。更新者用の教育訓練は、12月から3月にかけてオンラインおよびVODにて開催している。鍋島地区では5月に新規教育訓練をオンラインで、および更新教育訓練をVODにて実施することに加え、要請に応じて随時、教育訓練を実施している。
6. 環境安全部門を統括する本庄地区機器分析部門の専任教員は、本庄地区環境安全衛生委員会メンバーとして安全巡視を実施しており、化学物質管理委員会のメンバーとして化学物質管理に貢献している。理工学部化学部門安全衛生委員会メンバーとして同学科の安全衛生管理に貢献している。同部門鍋島地区を担当する教

務員は医学部安全衛生委員会メンバーとして鍋島キャンパスの安全衛生管理に貢献している。

7. 環境安全部門「衛生管理者受講者講習会」の講師を務め、各部局の衛生管理者増加への補助を実施している。
8. 環境安全部門を統括する本庄地区機器分析部門の専任教員は、化学系環境安全衛生委員会メンバーとして、局所排気装置の6か月ごとのメンテナンス作業実施に貢献している。
9. 遺伝子組換え実験安全研修会及び遺伝子研究安全管理協議会総会に伴って実施された安全研修会に参加し、遺伝子組換え実験の安全管理に関する情報を収集した。

【本年度事項】

10. 動物実験に関する教育訓練について、定期に実施される教育訓練に加え、利用者の希望に応じて教育訓練の録画のオンデマンド受講にも対応し、利用者の便宜を図るとともに、動物実験計画書 110 件の作成指導・事前審査を実施した。

(イ) センター教職員が行う、学部等における教育活動に関する事項

専任教員および技術職員は、センター利用者に対する教育訓練などの支援だけでなく、教養教育運営機構及び関連学部と協力し学部および研究科の教育にあたっている。以下にセンター教職員等が担当する講義名を示す。

機器分析部門（本庄）	全学「実験化学Ⅰ（分担）」「佐賀の環境Ⅱ(インターフェース)」「佐賀の環境Ⅱ（インターフェース）」
専任教員 1 名	理工学部「分離化学」「環境化学」「循環物質化学」「地球科学（教職科目）（分担）」「大学入門科目（分担）」「機能物質化学実験Ⅰ（分担）」「循環物質化学特別実習・演習（前後期）」「Special Lecture on AI・DS（分担）」 大学院工学系研究科博士前期課程「物質環境化学特論」「融合循環物質化学特論」「基礎反応化学特論（分担）」「循環物質化学セミナー（分担）」「循環物質化学特別演習（分担）」「基礎反応特論（分担）」「Advanced Environment Chemistry of Material」「地球環境化学特論」「機能材料化学応用特論」「機能材料化学特論」
生物資源開発部門（本庄）	全学「LS&FS2（分担）」
専任教員 1 名	農学部「生物統計学」「情報基礎概論（後半）」 理工学部「生物学概説」
放射性同位元素利用部門（本庄）	全学「LS&FS2（分担）」
専任教員 1 名	農学部「生化学実験（分担）」「基礎放射線科学」「食品科学（分担）」「生命機能科学概説（分担）」「農学概論（分担）」「生物学基礎実験（分担）」

	大学院先進健康科学研究科「感覚分子細胞学特論」「動物分子ストレス科学特論」「特別研究Ⅰ-Ⅳ」「健康機能分子科学演習 A-D」「応用生命科学基礎特論（分担）」
生物資源開発部門（鍋島） 専任教員 2 名	基本教養科目「生命科学の基礎 B（実験動物学）」 医学部「基礎科系実習（分担）」「基礎系選択科目（発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製）」「研究室配属プログラム（発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製）」 大学院医学研究科修士課程「実験動物学特論」「基礎生命科学研究法」「基礎生命科学研究実習」 大学院先進健康科学科修士課程「実験動物学特論」「動物発生工学特論」「特別研究Ⅰ(分担)」「特別研究Ⅱ(分担)」「特別研究Ⅲ(分担)」「特別研究Ⅳ(分担)」 大学院医学研究科博士課程「動物実験法」

(2) 研究支援の領域

(ア) 研究支援環境に関する事項

本学全体およびセンターにおける研究環境の改善、また、大学間の連携を高めて情報共有や機器の相互利用を推進のため、次のことに取り組んでいる。

【継続して取組んでいる事項】

1. センター利用状況を毎年度集計し、その集計結果をもとにセンターにおける研究環境の整備、改善を図っている。
2. センター機器および施設を利用する教員、学生等の研究成果、外部資金獲得状況に関する情報収集を毎年度行っている（「8.センター利用実績」を参照）。
3. 共用設備に関する調査結果に基づいて、共用設備の増加を図っている。また、機器の運用状況がインターネットを通じて確認できるようにするなど、ホームページの改善も図っている。
4. 共用設備に関する情報をウェブページに公開し、共同利用機器の予約申込み、予約状況ならびに運用状況の確認をオンラインでできる体制を整えている。また、各部門、利用者メーリングリストを構築し、機器運用、施設運用に関して迅速な情報提供を行う体制を整えている。
5. 他大学の共用設備に関する情報を大学内に発信している。
6. 他大学へ総合分析実験センター内の共用設備に関する情報を発信している。
7. 動物実験に関して、研究テーマに即した飼育室・実験室の改善を図っている。特に、遺伝子組換えマウスの飼育スペースの不足に対して、設備や飼育器材の充実に向けて可能な限り対応している。
8. 生物資源開発部門鍋島地区では、学内研究者への研究支援としてマウス精子・胚の凍結保存、体外受精胚移植による個体作製、遺伝子改変動物の作成、動物実験手技の技術指導等を行っている。
9. 適宜、利用者ミーティングを開催し、利用者からのニーズを把握するとともに円滑な共同利用環境の醸成を図っている。

10. 「国立大学法人生命科学研究機器施設協議会」に参画し、設備の大学間相互利用をはじめとした活動に協力している。
11. 「国立大学法人機器・分析センター協議会」に参画し、設備・機器の共用等に関する活動に協力している。
12. 「国立大学法人動物実験施設協議会」に参加し、協議会の活動への協力や動物実験および実験動物に関連する情報収集、意見交換等を行っている。
13. 「遺伝子研究安全管理協議会」に参画し、遺伝子組換え実験の安全管理等の遺伝子研究の推進について情報収集、意見交換を行なった。また、協議会の活動に協力している。

【本年度事項】

14. ABiS(科学研究費助成事業「学術変革領域研究(学術研究支援基盤形成)」【先端バイオイメーjing支援プラットフォーム】)主催の公開講座「OPT 九州 2025 きいて、みて、さわって！原理から学ぶ光学顕微鏡」を、技術職員等が中心となって開催し、学外の研究者や技術職員のスキルアップを支援した。
15. 鍋島地区機器分析部門では、技術職員が中心となり、基礎生物学研究所超階層生物学センターバイオイメーjing解析室およびオックスフォード・インストゥルメンツ株式会社主催の「Imaris ワークショップ」をサテライト会場として開催し、画像解析のスキルアップを支援した。
16. 農学部で発見された湧きだし線源の処理および原子力規制庁との手続きを行った。
17. 鍋島地区機器分析部門では、技術職員が中心となり、第 3 回佐賀大学総合分析実験センター機器分析実習「リアルタイム PCR」を開催した(<https://www.iac.saga-u.ac.jp/seminar/kikipractice-20250717/>)。他機関の技術職員を対象に、サンプルを送付することで、オンラインでの実習を可能とした初の取組となった。

(イ) 学術・研究活動に関する事項

センターの活動を通じて本学における学術・研究の推進を図るため、学内外との共同研究の推進、学外研究プロジェクトへの参画、シンポジウム等の開催を中心に取り組んでいる。

【継続して取組んでいる事項】

1. 導入機器の説明会や最新研究動向を知るためのセミナーおよびデモンストレーション、設置機器利用の習熟度向上のための機器利用講習会を実施している。令和 7 年度は 13 件のセミナー、6 件のデモンストレーション、1 件の講習会、1 件の公開講座を行った(「7. 業務等集計データ」を参照)。

2. 機器分析部門本庄地区専任教員 1 名が長崎県商工連携ファンド事業助成金を受けて開始した藻場再生に関する共同研究を一般企業とともに継続して行なっている。
3. 生物資源開発部門鍋島地区では、研究テーマの一つとして、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子改変ウサギの開発に関する研究を行っており、他の研究機関との共同研究を推進している。
4. 佐賀県内企業、および熊本県の事業主との共同研究を実施している。
5. 長崎県五島の企業、長崎大学との共同研究を実施している。
6. 佐賀県の Tsunagi プロジェクトで共同研究を実施している。
7. 山梨県の企業と学術コンサルティング契約を行い、研究指導している。
8. 福岡県の企業と共同研究を実施し、特許の申請を検討している。
9. 熊本県の事業者と出願した特許が公開され、複数の企業とライセンス契約手続きを進めている(山梨県企業、佐賀県企業、岐阜県企業)
10. 出願中の特許を用い作成した試料を千葉県企業と試料提供契約締結の上、養殖試験用資材として提供し、実地試験を実施している。

【本年度事項】

11. 熊本の共同研究事業主とともに受領された特許(特願 2022-12320)が受理された
12. 特許を1件(特願 2024-171302)申請した。

(ウ) センター職員による研究活動に関する事項

センターでは、研究支援活動と並行して、教職員がそれぞれ独自の研究テーマを持ち研究を行っている。個々の専門分野で高いレベルの研究に携わり、その研究活動や研究交流を通じて最新の研究成果や情報を入手することにより、センターの教育研究支援の向上と、本学の研究教育の推進に貢献している。

【継続して取組んでいる事項】

1. 各部門に配置されている技術系職員(含教務員)の研究への参画を促進しており、一部の技術系職員は独自の研究テーマに取り組んでいる。さらに、共同研究員として分析、調査を担当している。
2. 放射性同位元素利用部門では、昆虫の味覚・嗅覚機能の解明および摂食行動および産卵行動調節メカニズムに加え、昆虫の脱皮・変態制御に関する研究を行っている。
3. 生物資源開発部門鍋島地区では、部門の研究テーマとして、1)ヒト疾患モデルとしての遺伝子改変ウサギの開発と医学研究への応用、2)ウサギ精子および胚の凍

結保存に関する研究に取り組んでいる。共同研究先：山梨大学、生理学研究所、ミシガン大学(アメリカ)、西安交通大学(中国)。

(3) 国際交流及び社会連携・貢献の領域

(ア) 教育における社会連携・貢献に関する事項

センターでは各センター教職員の専門研究分野および各部門の特色を活かした社会貢献、地域社会との連携、他大学との教育における連携および地域に貢献する教育活動として以下の事項に取り組んでいる。

【継続して取り組んでいる事項】

1. 学生団体「NPO 佐賀学生スーパーネット」の顧問、および理事長として、学生活動のサポートを行っている。
2. 武雄看護リハビリテーション学校における講義「解剖生理学」を担当した。
3. 群馬大学医学部において非常勤講師として「実験動物学」の講義(分担)を担当した。
4. NPO さがクリークネット、および龍谷中学・高校と協働で松原川ライトアップイベント、水辺フェスティバルを開催した。
5. 佐賀県ユニセフ協会評議員として、学生の社会活動推進に貢献している。
6. 技術職員が中心となり、大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク主催の「親子で遊ぼう！女技の夏休み子どもサイエンス 2025」に講師として参加した。
7. 技術職員等が中心となって、高校生向け公開講座「夏だ！科学だ！研究だ！サイエンスワークショップ」を開催した(<https://www.iac.saga-u.ac.jp/seminar/2025scienceworkshop/>)。
8. 佐賀市水質調査専門委員として佐賀市水質関係の問題に対し、専門的な助言を行っている。

【本年度事項】

9. 第24回高校生ものづくりコンテスト九州地区大会 化学部門 審査委員を担当した。
10. 鍋島地区機器分析部門では、技術人財育成会と協力して、教務員が中心となり、全国の電子顕微鏡を担当する技術職員等と電子顕微鏡勉強会を開催した。

(イ) 研究における社会連携・貢献に関する事項

学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築

を図り、また学外の研究者との連携を深めるとともに、地域社会の研究推進や学会活動に貢献した。

【本年度事項】

1. 学外者利用の対応として、11件の利用相談に対応し、内4件は新規利用を行った。また、前年度からの継続利用12件へ対応した
2. 第43回九州実験動物研究会総会および第48回日本実験動物技術者協会九州支部総会合同大会を主催した。
3. 第40回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会を主催した。

(ウ) その他国際交流及び社会連携・貢献に関する事項

【継続して取組んでいる事項】

1. 日本腐植物質学会評議員として、学会の運営に貢献している。
2. 環境関連の4つのNPOの理事として活動に協力している。
3. 佐賀市水質調査専門委員として佐賀市の環境行政に助言を行っている。
4. 産業環境管理協会主催の公害防止管理者国家試験資格認定講習講師として「大規模水質特論」の講義を実施している。
5. 本学教員が佐賀市との共同事業として担当している市内小中学校を対象としたシックススクール調査に、センター職員が協力し、現地調査を行っている。
6. 学生約60名とともに地域自治体と共同で河川清掃を実施した(年2回)。
7. センター教員1名が(社)日本実験動物学会が推進する「動物実験に関する外部検証事業」から外部検証専門員を委嘱され、国内の研究機関への訪問調査等、外部検証事業に協力している。
8. 佐賀市市民活動応援制度審査委員会 委員長として、佐賀市の市民活動に協力している。
9. ものづくりコンテスト審査員として高校生の化学分野への活動に協力している。

【本年度事項】

10. 顧問、および理事長を務める学生団体「NPO 佐賀学生スーパーネット」が九電みらい財団次世代育成支援活動助成金に採用された。
11. 機器分析部門教員が、衛生管理者免許試験講習会、ものづくり技術者育成講座(環境保全コース)の講師および第24回高校生ものづくりコンテスト九州地区大会の審査員を担当した

(4) 組織運営の領域

(ア) 教育研究組織の編成に関する事項

【継続して取組んでいる事項】

1. Microsoft Teams を最大限活用し、Web 会議を本格運用して情報共有、会議を行っている。
2. 本庄地区と鍋島地区の職員間で月2回の Web 会議を実施し、キャンパス、部門を越えた包括的支援が出来るよう情報共有の上、組織運営を行っている。

(イ) 管理運営に関する事項

【継続して取組んでいる事項】

1. 環境安全部門は業務委託費の節約を図るため、必要箇所における作業環境測定（有機溶剤、特化物）を自ら実施している。
2. 本庄地区安全衛生委員会、化学系安全衛生委員会、化学物質管理委員会メンバーとして、運営に貢献している。
3. オンラインで開催された大学等放射線協議会に参加し、RI 施設・運営に関する今後の動向について情報収集を行った。
4. 放射性同位元素利用部門技術職員が、熊本大学との連携を図り放射線測定器の自前点検・校正を実施しており、測定器取扱技術の習得およびセンター運営費の経費削減に貢献している。

【本年度事項】

5. 原子力規制庁による放射線施設の立入検査が 2025 年 7 月 29 日に実施され、技術職員、教務員、研究推進課、放射線取扱主任者、センター長が対応した。いくつかの指導・助言を受け、全項目について改善策を講じた。

(ウ) その他組織運営に関する事項

【継続して取組んでいる事項】

1. 機器分析部門鍋島地区教務員1名は鍋島地区の国際規制物資管理者として関連業務を担当している。
2. 化学物質管理システム(CRIS)の全学運用に関して、鍋島地区環境安全部門教務員1名が管理主担当となり、環境安全衛生管理室と協力している。

- 鍋島地区では、教務員1名が第一種作業環境測定士を取得し、作業環境測定に協力するとともに、衛生工学衛生管理者を取得し、同資格が要求される附属病院衛生管理者を複数名確保することに協力し、同衛生管理者として選任されている。
- 動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会、放射性同位元素等安全管理委員会、医学部安全衛生委員会などに参画し、その専門知識を活かして大学運営に貢献している。
- センター職員の業務改善の取り組みの一つとして、タイムトラッキングアプリ「Toggl」を用い、各自の業務状況の把握を実施している。
- DX(デジタルトランスフォーメーション)に対応し、研究支援を含む各業務へ活かす方法を模索するべく、職員を中心にリスキリングを行っている。月1回の勉強会では、センター教職員が講師となり、PowerAutomate の活用方法、Python の演習に取り組んでいる。

【本年度事項】

- DX(デジタルトランスフォーメーション)に対応し、業務の効率化を進めるため、PowerAutomate による学外利用者の継続申請の自動化、Python を使った利用料金集計の自動化、職員の業務時間計測の集計自動化を行い、各職員の業務効率化に努めた。

(5) 施設の領域

施設・設備等に関する事項

【継続して取組んでいる事項】

- 総合分析実験センターとしての「災害対策マニュアル」を全学的なマニュアルと整合性をとりながら作成し、ホームページ上で公開している(<https://www.iac.saga-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/11/DisasterResponseManual.pdf>)。なお、放射線施設に関しては、放射線障害予防規程に「地震等の災害時における措置」について定めている。また、動物実験施設においても動物実験における「緊急時対応マニュアル」を作成している。
- 近年の研究方法の進歩により、動物実験施設の利用形態も多様化してきている。また、法令遵守、動物福祉の観点から実験動物の飼育環境の整備・改善も重要な課題となってきた。利用者からのニーズに合わせ先端的研究の効率な推進、法令遵守、動物福祉への対応等を考慮し施設設備の整備・更新等の予算措置の申請を行なっている。

【本年度事項】

1. 動物実験施設の老朽化した飼育器材をバイオハザード及びケミカルハザードに対応したものに更新し、病原体や発ガン物資を使用した動物実験の研究者の安全性に配慮した継続的な実施体制の整備を行なった。

動物施設内の蒸気配管改修ならびに再熱ヒーター交換工事等を行い、これまで頻発していた漏水事故の防止を図るとともに、飼育室の温湿度制御の管理体制の整備を行なった。

4. 外部評価

外部評価実施後に記載。

5. 明らかとなった課題及び課題に対する改善の状況・方策

令和7年度の自己点検・評価書において「新たな改善すべき点」として記載した項目及びその改善状況(令和6年度以前の継続事項を含む)

令和5年度以前より継続事項

【部門】機器分析部門(本庄地区)

【課題(令和3年度)】

令和3年度末に核磁気共鳴装置が導入された。利用者獲得のため、利用方法の習熟を行う必要がある。また、取扱説明書を作成し、利用者が使用しやすい環境の整備が必要となる。

サポート終了間近の装置があり、装置更新の要求を行っていく必要がある。

【改善状況(令和4年10月)】

新規に導入された核磁気共鳴装置の測定方法を習得した。取扱説明書を作成し、利用者へ配布することで簡便に測定できる環境整備を行った。また、本装置の測定技術習得について、機器分析技術研究会で発表を行った。

装置更新のために、液体クロマトグラフ質量分析装置・走査型電子顕微鏡・粒子径・ゼータ電位測定装置・示差熱・熱重量同時測定装置については、令和5年度概算要求事項として提出することができた。

【改善状況(令和5年7月)】

装置更新については、令和5年度設備整備計画と令和6年度概算要求事項を作成した。

【改善状況(令和6年7月)】

装置更新については、令和6年度設備整備計画を作成し、液体クロマトグラフ質量分析装置とガスクロマトグラフ質量分析装置については、令和7年度概算要求事項として提出した。

【改善状況(令和7年7月)】

装置更新については、令和7年度設備整備計画を作成した。液体クロマトグラフ質量分析装置とガスクロマトグラフ質量分析装置については、令和8年度概算要求事項として提出され、他部局と連携しながら設備更新に努めている。

【改善状況令和8年7月】

装置更新については、令和8年度設備整備計画を作成した。液体クロマトグラフ質量分析装置とガスクロマトグラフ質量分析装置については、令和8年度概算要求事項として提出され、他部局と連携しながら設備更新に努めている

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】機器分析部門(鍋島地区)

【課題(令和3年度)】

令和4年度に院生研究棟の改修工事が行われることとなった。しかし、該当する部屋は、培養室、フリーザー室、サーバー室等、停止することができない設備ばかりであり、改修工事中の仮稼働ができるよう医学部や施設課と連携する必要がある。

また、サポート終了間近の装置があり、引き続き装置更新の要求を行っていかなければならない。

【改善状況(令和4年10月末)】

院生研究棟1期工事開始にあたり、臨床・基礎研究棟内に培養室、フリーザー室の仮稼働を、サーバー室の移転を行うことができた。また、医学部からの協力により、工事後には培養室・フリーザー室を拡充できる予定である。ユーザーや装置が増えたことで手狭だったが、これにより解消すると考えている。

また、サポート終了間近の装置については、予算要求を行った。特にセルアナライザーについては、令和5年度概算要求事項として提出することができた。

【改善状況(令和5年7月)】

院生研究棟1期工事完了にあたり、培養室・フリーザー室の拡充と整備を行った。

また、令和5年3月末でサポート終了したセルアナライザーについて、引き続き予算要求を行った。

【改善状況(令和6年7月)】

院生研究棟改修工事は2期工事が終了し、新たにフリーザー室を設けて拡充し、工作室を再整備した。工作室はこれまでの部屋から面積を減らし、必要最小限の設備を備えることとした。

また、令和5年3月末でサポート終了したセルアナライザーについては、引き続き医学部に対して予算要求を行った。

【改善状況(令和7年7月)】

院生研究棟改修工事の3期が終了したことで、研究棟の改修工事自体が終了、当センターの設備配置も完了した。

セルアナライザーについては、令和6年度概算要求事項として提出を行い、事務方と協力して設備更新に努めている。

【改善状況令和8年7月】

セルアナライザーの予算措置が行われ、調達手続きを進めている。また、透過型電子顕微鏡やサポートが終了している超遠心機等の更新のため、研究設備整備計画へ申請を行っている。

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】放射性同位元素利用部門(本庄・鍋島両地区)

【課題(令和3年度)】

鍋島 RI は施設更新を行ったものの一部の設備・少額備品を更新できおらず老朽化している。特に RI 作業では必須となるハンディタイプの測定器の更新が進んでいない。また、法令遵守となる施設・設備の点検・校正に関わる体制が整っていない。

本庄 RI は施設廃止を完了したが、法令にて永年保存が義務づけされている放射線業務従事者被ばく記録の外部機関(放射線影響協会)への受渡が完了していない。

【改善状況(令和4年10月末)】

ハンディタイプ測定器は管理台数を減らした上で順次更新する予定である。施設・設備の点検・校正に関しては、依頼可能な業者の選定を進めている。いずれも令和5年度の法改正に向けて整備が必要であり、来年度に向けて引き続き対応する。

本庄 RI の記録の受渡については、同一事業所間での記録の受渡が可能であるため、取り纏めた後鍋島 RI にて保管予定である。

【改善状況(令和5年7月)】

ハンディタイプ測定器は優先度の高い NaI シンチレーションカウンタを新規にて1台購入した。順次可能な範囲内にて、NaI シンチレーションカウンタ2台および GM カウンターを1台更新予定である。本庄 RI の記録については鍋島 RI の書類保管庫にて保管中である。

【改善状況(令和6年7月)】

ハンディタイプの測定器の更新は上記1台のみとなっており、追加の更新は進んでいない。また、被ばく記録の外部機関(放射線影響協会)への受渡についても具体的な進展はない。

【改善状況(令和7年7月)】

ハンディタイプ測定器更新について、今回はどちらの機器を優先するべきか検討した。2種の機器に対して1台ずつ最新機器を用意することを考慮し、前回の更新が NaI シンチレーションカウンタだったことを踏まえて、GM カウンターを優先的に順次更新予定である。被ばく記録の外部機関(放射線影響協会)への受渡については、当面は鍋島 RI の書類保管庫にて保管しつつ、適切な受け渡し手順や時期を検討中である。

【改善状況令和8年7月】

ハンディタイプの測定器の更新は上記1台のみとなっており、追加の更新は進んでいない。また、被ばく記録の外部機関(放射線影響協会)への受渡についても具体的な進展はない。

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】生物資源開発部門(鍋島地区)

【課題(令和3年度)】

令和2年度の学内営繕事業により、動物実験施設において、これまで蒸気漏れが頻発していた再熱ヒーターの交換や蒸気配管の改修工事(いずれも鋼管からステンレス管へ更新)が

行われたが、施設全体ではなく一部の更新のみであったことから、未更新部分(鋼管)からの蒸気漏れは未だに発生しており、実験動物の適正な飼育環境の維持管理、事故への対応に職員が時間をとられるなど日常業務等に支障を来している。残る鋼管部分も早急に更新等の対応を行う必要がある。

【改善状況(令和4年10月末)】

センター運営費での実施は困難なことから、関係部署とも相談し、改善のための費用獲得に向けた予算申請(学内営繕事業)を検討する。

【改善状況(令和5年7月)】

関係部署とも協議し、改善のための費用獲得に向けた予算申請(令和5年度学内営繕事業)をおこなった。

【改善状況(令和6年7月)】

改善のための費用獲得に向けた予算申請(令和6年度学内営繕事業)をおこなったが、採択されなかった。引き続き、改修・更新のための予算確保について取り組む必要がある。

【改善状況(令和7年7月)】

学内措置にて、改修工事の実施が決まった。令和7年度内に改善の予定。

【改善状況令和8年7月】

再熱コイル等改修工事として令和7年9月から令和8年3月にかけて改修が行われた。飼育室の温湿度制御が正常に復帰した。

【計画の進捗状況】

対応済

【部門】機器分析部門(本庄地区)

【課題(令和4年度)】

利用者支援の円滑化のために、動画マニュアルの作成や機器操作用 PC の遠隔化を進める。また、管理スタッフ不在時でも他のスタッフが対応出来る体制を整備する為、トラブルシューティングを作成し、共有する。

【改善状況(令和5年7月末)】

動画マニュアルの作成や機器操作用 PC の遠隔化を進めているところである。また、トラブルシューティングを作成し、共有した。

【改善状況(令和6年7月)】

ガスクロマトグラフ質量分析装置2台を遠隔化した。動画マニュアルの作成は、物性測定装置の取扱説明のマニュアルを作成した。今後も随時進めていく予定である。トラブルシューティングは、引き続き作成し、スタッフ間で共有している。

【改善状況(令和7年7月)】

動画マニュアルは、高分解能核磁気共鳴装置 とゼータ電位・粒径測定システム、マイクロ天秤、原子間力顕微鏡について作成した。トラブルシューティングは、引き続き作成し、スタッフ間で共有している。

【改善状況令和8年7月】

動画マニュアルは、単結晶 X 線構造解析装置と高分解能核磁気共鳴装置のメンテナンス手順について作成した。トラブルシューティングは、引き続き作成し、スタッフ間で共有している。

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】環境安全部門(本庄・鍋島両地区)

【課題(令和4年度)】

令和4年2月に労働安全衛生法施行令等が改正され、自主的な化学物質管理が求められることになった。この法改正について部局内に周知するため、説明会を開催する。また、現在、教務員1名で対応している業務について他のスタッフでも対応出来る体制を整備するため、鍋島キャンパスの作業環境測定について、サンプリング業務を他のスタッフでサポートし、業務内容をまとめる予定である。

【改善状況(令和5年7月末)】

化学物質管理についての説明会を実施し、対応すべき事項について周知した。また、化学物質の危険性・有害性に関する情報伝達の強化に対応するため、GHS ラベルシールを作成し、各部門に配布した。鍋島キャンパスの作業環境測定のサンプリングは、前期を9月、後期を3月に実施予定である

【改善状況(令和6年7月)】

鍋島キャンパスの前期と後期作業環境測定のサンプリングの際に本庄キャンパススタッフ1名がサポートし、作業内容をまとめた。

【改善状況(令和7年7月)】

鍋島キャンパスでは4月に CRIS 講習会を開催し、講師を務めた。昨年度に引き続き、鍋島キャンパスの前期と後期の作業環境測定のサンプリング補助を行う予定である。

【改善状況令和8年7月】

鍋島キャンパスでは4月に CRIS 講習会を開催し、講師を務めた。昨年度に引き続き、鍋島キャンパスの前期と後期の作業環境測定のサンプリング補助を行う予定である。

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】生物資源開発部門(鍋島地区)

【課題(令和5年度)】

実験動物の飼育管理業務の安定的かつ継続的な実施のための人員の確保に関して。

動物実験施設では、実験動物の飼育管理作業を臨時職員が担っているが、3年雇用のため、業務を習得してもすぐに満期退職となってしまう。また、退職後の補充の募集をしても応募がないなどの状況が続いており、実験動物の飼育管理業務の安定的かつ継続的な実施が困難になってきている。業務を習得した職員を長期雇用できるような体制が必要である。このことは、令和5年度に受審した本学における動物実験に関する第三者評価の際にも、継続的な人員の配置について懸念事項として外部の調査員からコメントがあった。

【改善状況(令和6年7月末)】

本学における動物実験に関する第三者評価での調査員から意見については、動物実験委員会とも情報共有を行うとともに学長にも報告した。

【改善状況(令和7年7月)】

実験動物の飼育管理業務の安定的かつ継続的な実施のための人員の確保に向けた体制整備の検討を継続して行う。

【改善状況令和8年7月】

技能補佐員の後任補充のための募集を行ったが応募がなく、後任採用までに4ヶ月間を要した。この間の動物実験施設の管理運営に支障をきたした。引き続き、実験動物の飼育管理業務の安定的かつ継続的な実施のための人員の確保に向けた体制整備の検討を継続して行う。

【計画の進捗状況】

検討中

【部門】機器分析部門(本庄地区)

【課題(令和5年度)】

消耗品や光熱水費の高騰により、修理費が捻出できず、利用を停止している装置が複数台ある。また、理工学部から毎年配分されていた大型設備維持費は、年々減額され、来年度から配分されないことが決定している。今後ますます装置を継続的に維持していくことが困難となるため、維持管理費の支援を装置の所有部局にお願いする必要がある。

【改善状況(令和6年7月末)】

装置の所有部局に維持管理費の支援を引き続きお願いしている。高額な修理については、本部に上申書を提出する予定である。

【改善状況(令和7年7月)】

今年度から理工学部より共用機器の整備費が新たに配分されることとなったため、故障している装置の修理が実現した。

【改善状況令和8年7月】

外的要因により液体ヘリウムの入手が困難になったことから高分解能核磁気共鳴装置の運用を見直し、1台を停止させることを決定した。また、液体ヘリウム循環装置導入費用について本部に要望している。

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】環境安全部門(本庄・鍋島両地区)

【課題(令和5年度)】

現状、鍋島キャンパスの作業環境測定は、教務員1名で対応しているため、本庄のスタッフによるサンプリング業務のサポートを継続する予定である。また、労働安全衛生法に基づき、実験に起因する危険性や有害性を調査(リスクアセスメント)し、その結果に基づいて作業者の危険や健康障害を防止するための必要な対策を実施することが義務付けられている。今年度から、CREATE-SIMPLE というツールを用いて化学物質のリスクアセスメントを行い、学生に対して教育を行う方針となったため、周知を行う。

【改善状況(令和6年7月末)】

鍋島キャンパスの前期と後期作業環境測定のサンプリングは、前期を9月、後期を3月に実施されるが、昨年同様、本庄キャンパススタッフ1名がサポートする予定である。また、化学物質管理に関する講習会が本庄で5月に開催されたため、受講を促した。

【改善状況(令和7年7月末)】

鍋島キャンパスの作業環境測定のサンプリングは、昨年同様、本庄キャンパスのスタッフ1名がサポートする予定である。鍋島キャンパスでは4月にリスクアセスメント講習会を開催した。本庄キャンパスでは6月に開催された「化学物質管理に関する講習会」について周知した。また、薬品の在庫管理とリスクアセスメントの手順書を作成した。

【改善状況令和8年7月】

鍋島キャンパスの作業環境測定のサンプリングは、昨年同様、本庄キャンパスのスタッフ1名がサポートする予定である。鍋島キャンパスでは4月にリスクアセスメント講習会を開催した。本庄キャンパスでは6月に開催された「高圧ガス保安講習会」について周知した。

【計画の進捗状況】

対応中

【部門】放射性同位元素利用部門

【課題】

RI 規制法の改正により、測定器の校正・点検が厳格化されたことに伴い、それらの費用負担が増加している。

【改善状況(令和6年7月末)】

経費削減のため、当部門技術職員が他大学と連携して自前の校正・点検を行うべく準備を進めている。

【改善状況令和8年7月】

昨年度は熊本大学に当部門の測定器を持ち込んで、自前の校正・点検を行った。業者に依頼した場合の費用を削減することができた。今年度以降も同様の手順で校正・点検を行う予定である。

【計画の進捗状況】

対応済

令和7年度の自己点検・評価書に「改善すべき点」として記載及び令和8年7月までの改善状況を暫定として記載

【部門】放射性同位元素利用部門

R7年7月29日に原子力規制庁による RI 実験施設の立入検査が実施され、帳簿、放射性廃棄物の保管廃棄手順・方法、汚染検査における測定点等について指導を受けた。

【改善状況(令和8年7月末)】

帳簿の見直しおよび新規帳簿の作成、保管廃棄方法の厳格化および教育訓練での周知、汚染検査に関わる測定点を3点追加することにより、規制庁の指導項目への対応を行った。

【計画の進捗状況】

対応済

6. 総括

専門知識・技能・資格・保有設備を活かした研究教育支援センターとしての役割

令和7年度は一般運営費の大幅削減が開始されてから10年目にあたる。各部門の利用数よりいずれの部門でも利用者数が回復傾向にあるが、運営費の削減は継続されているため今後も利用者の動向を注意深く確認して行く必要がある。しかし、一定の利用数は維持されており、依然としてセンターによる支援が学内の研究活動に恒常的に寄与していることは明らかである。また、センター利用者の外部資金獲得状況も年次変動はあるものの増加傾向にあるため、その動向は本センターが教育・研究支援組織としての役割を十分に果たしていることを示している。新型コロナウイルス感染症の流行以降、センター主催の講習等は Web 開催を併用する等、利用者の研究がより効率的に実施できるよう努めている。また、今後の研究環境の変化に対応していくため、遠隔化や自動化への対策、受託試験の提供などを推し進めている。

本センターに所属する教員はそれぞれ独自の研究テーマを持ち、各教員がそれぞれ研究成果を挙げている。さらに、教務員、技術職員も外部資金獲得への取り組みおよび研究業績の発表をおこなっており、こうした研究活動や研究交流を通じて、センターの教育研究支援レベルの向上に寄与するとともに、その専門知識、技能、資格あるいは保有設備を活かして講義、実習を担当することにより教育に直接関わるほか、委員会活動を通じて本学の運営にも貢献している。また、令和5年度より、DX(デジタルトランスフォーメーション)に対応し、研究支援を含む各業務へ活かす方法を模索するべく、職員を中心にリスキリングを実施している。さらに、センターでは、学会活動や地域社会の研究推進や環境保全活動などに積極的に参加、協力しており、これらの活動が、地域社会あるいは国内外における本学に対する評価を高めることに寄与している。

センターの問題点(人材不足、機器・施設の老朽化)

センターの保有する一部の機器、あるいは施設自体の老朽化が顕著であり、教育・研究の支援に支障を来していることは大きな問題となっている。本問題は、概算要求による大型機器の更新および施設の改修によって一部の機器において改善されたものの、近年では多くの機器が更新されていない状態となっている。本センターは一部の研究分野において必須となる大型機器も管理していることから、これらの機器の故障等によるトラブルは、本学の研究能力の低下に直結している。従って、施設の改修や新しい機器の導入のための概算要求などを継続して行い、それに加えて、現有の機器の保守および施設の維持管理に関わる学内の予算措置の要求を行っていく必要がある。

さらに、機器の保守管理に必要な技術職員等が不足しており、施設の大きさおよび保有機器数に見合った人員の確保が重要であるにも関わらず教職員ともに十分な人員補充はなされていない。現状における対策として業務ならびに設備の現状を的確に把握し、その改善、見直しを図ることにより、人的資源を投入する業務ならびに設備の取捨選択と集中化に取り組む事で対応しているものの、教務員、技術員、技術専門職員が過重業務を担っており、本来遂行すべき教育支援、機器管理等の業務に支障が発生している。よって、必要な人員の確保が本センターの最重要課題である。また、センターの予算的自立による設備更新費用や修理費用の確保については、利用者数増加の取り組みや学外利用の増加計画等により取り組む必要があると考えられる。

近年、文部科学省・JST が推進する先端研究版刷新事業(EPOCH)など、本学として大型予算を獲得するには、これらの推進事業に沿った組織運営が必須となっている。EPOCH では主にコアファシリティ(共用設備拠点)の戦略的整備、人員整備としては技術系職員の待遇改善などが掲げられており、研究費の有効活用を図り、若手を含む全国の研究者が先端的な設備にアクセスできる環境の整備を推進している。本学においても、ヒトとモノの環境整備(改善)を推進していくことが必須であり、本センターの教育研究支援組織としての実績を鑑みると、今後それらの環境整備において中核的役割を担うことが予想される。

最後に、本学における教育・研究支援組織の中核として位置づけられている総合分析実験センターの支援環境整備に、大学全体のご理解とご協力をお願いしたい。

7. 業務等集計データ

(1) 研修・教育訓練

研修名	開催日	参加人数
放射線障害防止法に基づく教育訓練（更新訓練） （鍋島地区）	R7.4.10-5.30	17
放射線障害防止法に基づく教育訓練（更新訓練） （本庄地区）	R8.2.16-3.30	85
放射線障害防止法に基づく教育訓練（新規教育訓練） （鍋島地区）	R7.4.15 R7.6.25 R8.1.19	4
放射線障害防止法に基づく教育訓練（新規教育訓練） （本庄地区）	R8.1.19	16
液化ガス取扱い保安講習会	R7.4.23	120
第1回衛生管理担当者説明会	R7.7.29	63
第2回衛生管理担当者説明会	R8.2.17	50
化学物質リスクアセスメント講習会	R7.4.30	29
CRIS利用講習会	R7.4.25	8
遺伝子組換え実験に関する教育訓練（本庄）	R7.12.4	39
遺伝子組換え実験に関する教育訓練（鍋島）	R7.12.10	4
遺伝子組換え実験に関する教育訓練（不定期）		10
動物実験に関する教育訓練（定期）		
動物実験に関する教育訓練（不定期）		

(2) 作業環境測定

単位作業場所	回数	対象物質
理工学部9号館4階 共同実験室(8)406	2(1)	アセトン・ジクロロメタン・クロロホルム・(2-プロパノール・ヘキサン・トルエン・酢酸エチル・四塩化炭素・N,N-ジメチルアミド・1,4-ジオキサン)
理工学部9号館4階 合成化学実験室(4)513	1	ジクロロメタン
理工学部9号館6階 合成化学実験室(2)611	1	アセトン・メタノール・ヘキサン・N,N-ジメチルアミド・酢酸エチル
理工学部9号館7階 有機合成実験室(4)709	1	ヘキサン・アセトン・ジクロロメタン
理工学部9号館7階 無機化学実験室(1)710	2(1)	ジクロロメタン・(クロロホルム・メタノール)
理工学部9号館7階 分析化学実験室(1)711	1	アセトン
理工学部9号館7階 分析化学実験室(2)712	2	アセトン
理工学部9号館5階 無機化学実験室(2)810	1	・酢酸エチル
理工学部9号館5階 無機化学実験室(3)811	1	アセトン
農学部1号館2階 ○○室(2) 1N-213A	1	クロロホルム
農学部1号館2階 食糧安全学実験室1S-226	1	メタノール
農学部1号館3階 1S-331	1	クロロホルム
農学部2号館2階 学長裁量スペース室2-204	1	メタノール・2-プロパノール
農学部4号館5階 食資源情報学実験室(1)4-517	1	アセトン・メタノール・クロロホルム
附属病院 中央診療棟2階 材料部 EOG滅菌室	2	エチレンオキシド
附属病院 中央診療棟2階 輸血部 輸血検査室	2	ジクロロメタン
附属病院 中央診療棟2階 検査部血液生化学検査室	2	キシレン、メタノール、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン
附属病院 中央診療棟2階 検査部遺伝子学生実習室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟2階 検査部微生物検査室	2	メタノール、アセトン
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（検体処置室）	2	クロム酸・重クロム酸
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（検体処置室）	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（検体処置室）	2	キシレン、メタノール、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（迅速・手術臓器処置室）	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（迅速・手術臓器処置室）	2	キシレン、メタノール、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（固定臓器切出し室）	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（固定臓器切出し室）	2	キシレン、メタノール、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（特定化学物質廃液類保管庫）	2	キシレン、メタノール、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン
附属病院 中央診療棟3階 病理検査室内（特定化学物質廃液類保管庫）	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟1階病理解剖部 解剖室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟1階病理解剖部 固定室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟1階病理解剖部 切出し室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟1階病理解剖部 材料保存室3	2	ホルムアルデヒド
基礎実習棟1階 生態構造機能学（解剖学・人類学）系統解剖実習室 1129	1	ホルムアルデヒド
基礎研究棟1階 病因病態科学病理学 標本作製室 2126	2	ホルムアルデヒド
基礎研究棟1階 病因病態科学病理学 標本作製室 2126	2	キシレン、メタノール、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン
臨床研究棟3階 分子医化学 大実験室 2335	2	キシレン、メタノール、アセトン、エチルベンゼン
院生研究棟3階 胸部心臓血管外科 2377	2	キシレン、メタノール、アセトン、イソプロピルアルコール、エチルベンゼン

(3) 開催セミナー・デモ機設置等

■ 総合分析実験センターセミナー

セミナー詳細については下記 URL を参照

<https://www.iac.saga-u.ac.jp/seminar.html>

開催番号	演者	演題	場所	開催日
第1回	西日本イワタニガス株式会社 安全保安部 青木美恵	液体窒素保安講習会	Web (MicrosoftTeams)	2025/4/23
第2回	株式会社ニチリョー 第一事業本部 国内営業部 フィールドセールス課 大宮要人	マイクロピペット セミナー&メンテナンス	Web (MicrosoftTeams)	2025/5/15
第3回	メトラー・トレド株式会社	天びん基礎セミナー	Web (MicrosoftTeams)	2025/5/14
第4回	プロメガ株式会社 営業推進部 学術課 池田彩葉	プレートリーダーでここまでできる！"ELISA法"を凌駕するルシフェラーゼによる標的タンパク質の検出と相互作用解析	Web (Microsoft Teams) 医学部RI棟2階R209室	2025/6/17
第5回	株式会社日立ハイテクフィールドディング 西村雅子 アメテック株式会社 川畑正伸	走査電子顕微鏡・元素分析基礎セミナー	Web (MicrosoftTeams)	2025/6/18
第6回	プロメガ株式会社 学術課 長谷川航希 プロメガ株式会社 器機サービス	核酸精製とRNA解析の成功の秘訣	Web (Microsoft Teams) 医学部RI棟2階R209室	2025/9/9
第7回	株式会社エービー・サイエックス	SCIEX 液体クロマトグラフ質量分析装置 (LC-MS/MS) セミナー	Web (MicrosoftTeams)	2025/10/22
第8回	サーモフィッシャーサイエンティフィック ライフサイエンスソリューションズ テクニカルセー	Attune CytPix Flow Cytometer 紹介セミナー & デモンストレーション	Web (MicrosoftTeams)	2025/10/27
第9回	ソニー株式会社 ライフサイエンス営業部	ID7000デモンストレーション	Web (MicrosoftTeams)	2025/11/27 2025/12/15
第10回	株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE ヘルスケアソリューションユニット ライフ	MultiNA II Workshop	Web (Microsoft Teams) 医学部RI棟2階R209室	2025/12/10
第11回	オプティクス事業部 赤外・ラマンスペクトロスコーピー セールスエンジニア 坂本賢治	Bruker FT-IR Basic seminar	Web (MicrosoftTeams) 理工学部9号館6階セミナー室1	2025/12/10
第12回	サーモフィッシャーサイエンティフィック ライフテクノロジーズ ジャパン株式会社	高速スペクトルフローサイトメーター Attune Xenith Flow Cytometer 紹介セミナー & デモンストレーション	Web (MicrosoftTeams)	2026/1/27
	基礎生物学研究所 超階層生物学センター バイオイメージング解析室 オックスフォード・インス	IMARIS Workshop 2025	基礎生物学研究所 佐賀大学 医学部 RI棟 2階 R209室	2025/7/14-16
	佐賀大学 総合分析実験センター	夏だ！科学だ！研究だ！サイエンスワークショップ	佐賀大学 医学部基礎研究棟2階2229室 理工部9号館1階102室	2025/7/26 2025/7/27

■ デモ機設置

機器名	メーカー	場所	開催日
イメージングフローサイトメーター Attune CytPix Flow Cytometer	Thermo Fisher Scientific	農学部1号館中棟3階310室	2025.11.18-19
マイクロチップ電気泳動システム MultiNA II	島津製作所	医学部RI棟2階R209室	2025.12.11-12
スペクトル型セルアナライザー ID7000	ソニー株式会社	医学部基礎研究棟3階2327室	2025.12.17-18
オールインワン蛍光顕微鏡 BZ-X1000	キーエンス	農学部1号館中棟3階310室	2025.12.17-2026.1.15
高速スペクトルフローサイトメーター Attune Xenith Flow Cytometer	Thermo Fisher Scientific	医学部基礎研究棟3階2327室	2026.2.17-18
微量分光光度計 NanoDrop Ultra FL	Thermo Fisher Scientific	医学部基礎研究棟3階2327室	2026.3.10-16

■ 機器利用講習会(学内)

機器名	メーカー	場所	開催日
Raise3D Pro3 Plus HS	日本3Dプリンター株式会社	Web (Microsoft Teams) 医学部RI棟2階R209室	2025/6/5

8. センター利用実績

(1) 令和7年度利用実績の概要

令和7年度のセンター施設利用者はのべ93,474名であり、センターに設置している設備・機器利用回数はのべ47,328回であった。また、センター利用者の業績は、著書10報、原著論文326報、総説、解説、資料など0報、学会発表、招待講演など270件、科研費獲得は、243件で総額181,455千円である。センター専任の教職員の業績は、原著論文2報、総説・著書が1報、学会発表・招待講演など16件、外部資金獲得は7件で総額7,605千円であった。

(2) センター利用実績の動向

センター利用実績およびユーザー業績の集計値および年次変動を表および図にまとめた。

まず、センターの利用実績について、今年度の施設利用数(のべ人数)は、85,657人であり多くのユーザーに利用されていることがわかる(表1)。なお、平成31年度から本庄地区機器分析部門及び生物資源開発部門ののべ利用人数を集計値に加えたため、当年度以降にユーザー数の増加が認められる(表1、図2、3)。ただし、施設利用数の算出は、各施設の運営形態に合わせ、入館、入室データあるいは機器利用数を元にしており、部門間の比較は困難である。本庄地区機器分析部門及び生物資源開発部門は組織改革および新共用の採択により環境整備を進めたことにより、令和2年度より大幅にユーザー利用数が増加している。RI 実験施設は令和3年に本庄地区を廃止して鍋島地区と統合した。なお、同部門は他部門と比較しユーザーのべ利用回数は少ない(表1、図2)。近年、学外の放射線施設を利用するユーザーが増加し、それらユーザーの放射線業務従事者登録に必要な教育訓練を実施している。数字としては表示されないものの、本学の放射線利用研究に貢献していると言える。学内で唯一の実験動物飼育施設を有する鍋島地区生物資源開発部門における飼育頭数は、平成28年度の運営費削減を境に大きく減少しているものの、令和4年度より施設の延べ利用人数が増加し、マウスの飼育頭数が増加している。加えて、令和4年度より新たな動物種の飼育に対応するなど本学の研究教育に大きく貢献していることがわかる(図5、6)。鍋島地区機器分析部門は例年多くのユーザー数を維持している。業務の見直しや改善等により、利用数や利用率を向上させ、機器利用講習会やデモ機設置の実施によりさらなる支援の強化が進んでいるといえる。また、本庄・鍋島両地区とも総合分析実験センターセミナーを開催することで、関係法令に関する情報および機器利用方法等の情報をユーザーに向けて多数発信していることが、ユーザー数の増加に貢献していると考えられる。ユーザー利用実績の年次変動は大きいものの、常に一定の業績が維持されていることから、センター

が本学の教育・研究において恒常的に支援センターとしての役割を果たしていると考えられる（表1、図2、3、4）。

再活用室は平成30年度より廃止となったが、環境安全部門が担当するリサイクルファシリティが利用されることで、各教員・研究室が所有する設備・機器の有効利用が促進されており、学内の資産運用に大きく貢献している。また、環境安全部門は両地区の技術専門職員並びに教務員が作業環境測定を実施している。本部門の業務は、ユーザー利用実績として直接的な数値化はできないが、本センターのみならず研究室単位での研究環境の整備ならびに法令遵守に大きく貢献している。

表1 センター利用実績の推移

		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考
施設利用	動物実験施設	10,949	10,370	11,205	12,095	11,095	10,608	14,392	0	12,263	12,461	のべ人数
	機器分析部門（鍋島）	43,045	41,153	38,124	44,089	68,309	58,137	47,508	0	70,260	61,309	のべ人数
	RI実験施設（鍋島）	538	1,216	1,296	3,789	2,154	2,619	2,705	0	2,632	3,166	のべ人数
	RI実験施設（本庄）	830	638	586	525	280	0	廃止				のべ人数
	生物資源開発部門（本庄）				45	304	234	263	0	1,466	282	のべ人数
	機器分析部門（本庄）				418	5,940	6,065	4,171	0	6,853	5,439	のべ人数
	合計	55,362	53,377	51,211	60,961	88,082	77,663	69,039	0	93,474	82,657	のべ人数
機器利用	鍋島	31,042	30,077	29,659	32,529	36,842	37,074	32,643	36,418	39,982	39,016	のべ回数
	本庄	5,317	5,198	5,719	6,156	6,244	6,299	5,890	8,338	7,346	5,674	のべ回数
	合計	36,359	35,275	35,378	38,685	43,086	43,373	38,533	44,756	47,328	44,690	のべ回数
リサイクルファシリティ	環境安全部門	5	13	4	2	8	10	27	1	11	1	件数
再活用室	環境安全部門	7	9	廃止								件数
実験動物飼育頭数	マウス	1,344,255	1,274,255	1,363,570	1,577,025	1,692,510	1,659,945	1,974,610	1,974,965	2,002,350	2,072,640	のべ頭数
	ラット	49,567	53,015	42,530	47,463	44,442	30,446	21,178	13,901	16,187	14,291	のべ頭数
	ハムスター	1,609	6,885	2,160	1,400	957	2,860	4,321	280	0	0	のべ頭数
	モルモット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140	のべ頭数
	ウサギ	24,567	36,213	45,114	53,856	15,463	8,723	8,922	13,329	8,182	6,987	のべ頭数
	イヌ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	のべ頭数
	ブタ	0	0	0	0	0	277	175	0	0	0	のべ頭数

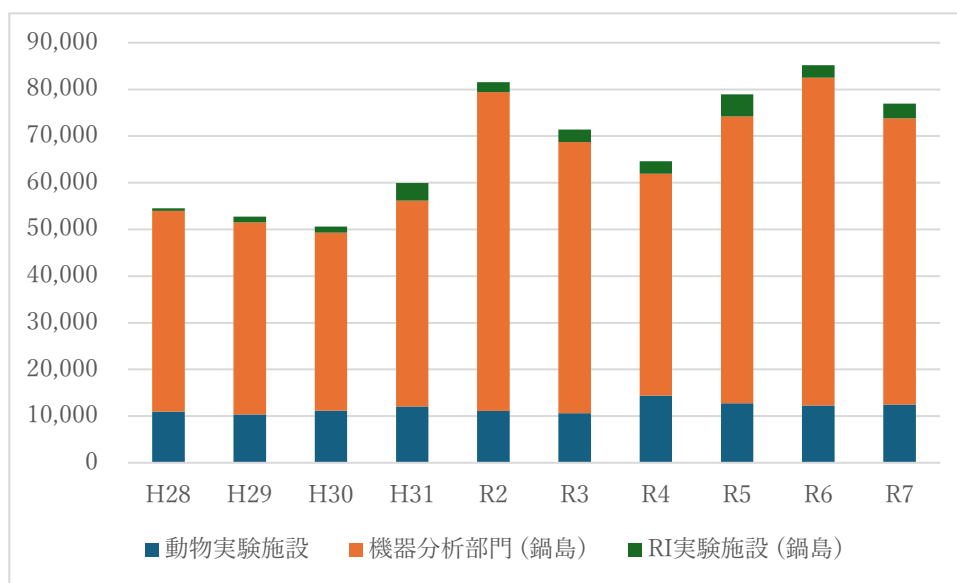


図2 施設利用者数の推移（鍋島地区）

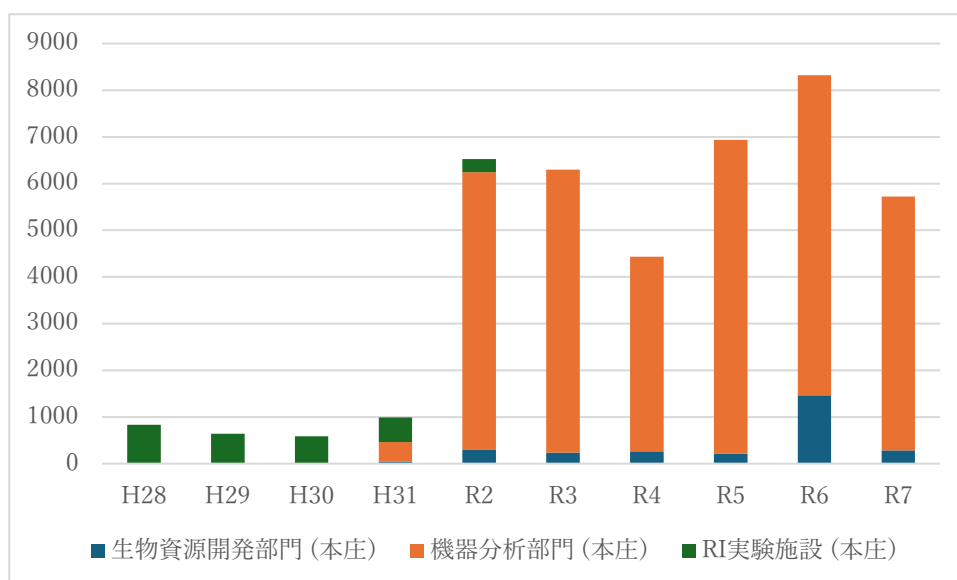


図3 施設利用者数の推移 (本庄地区)

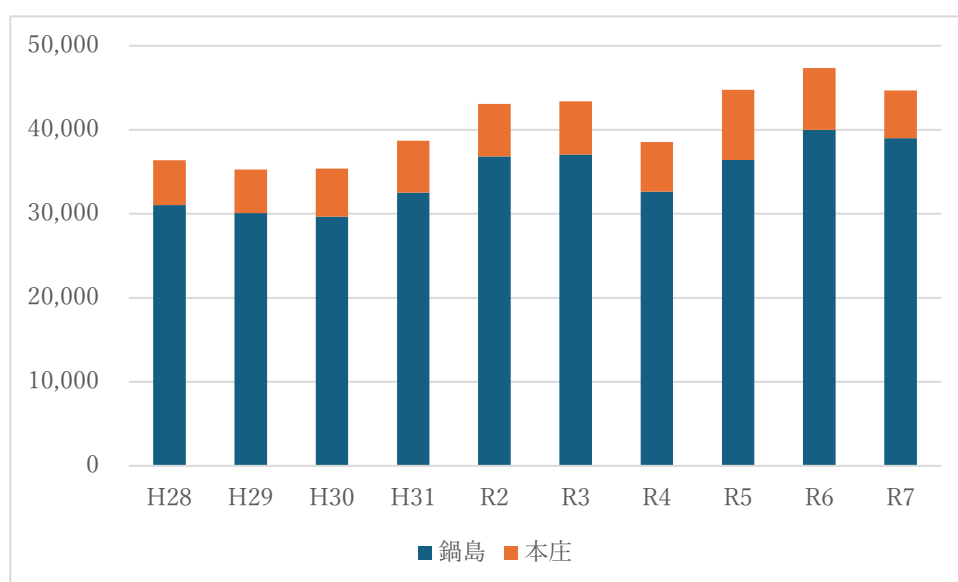


図4 機器利用回数

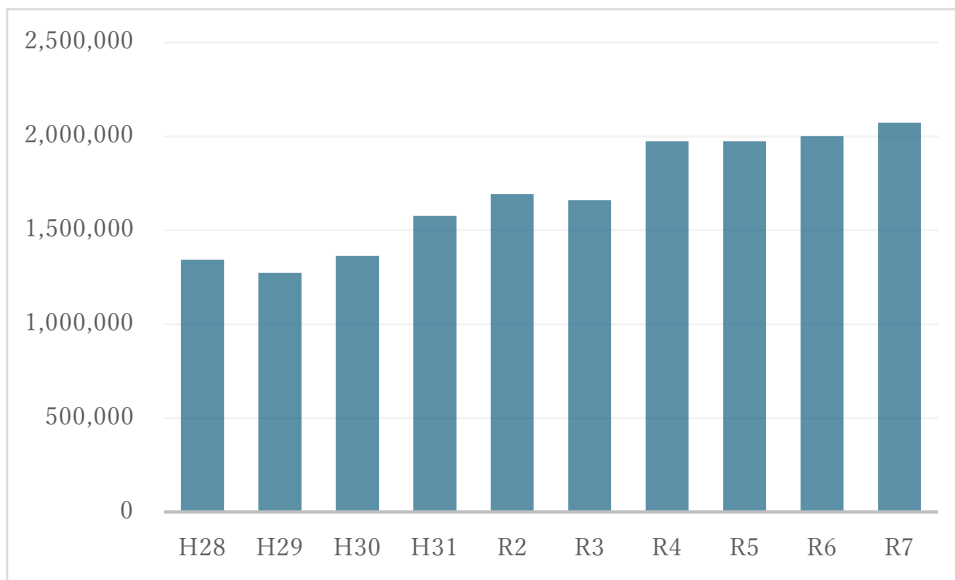


図5 マウス飼育数

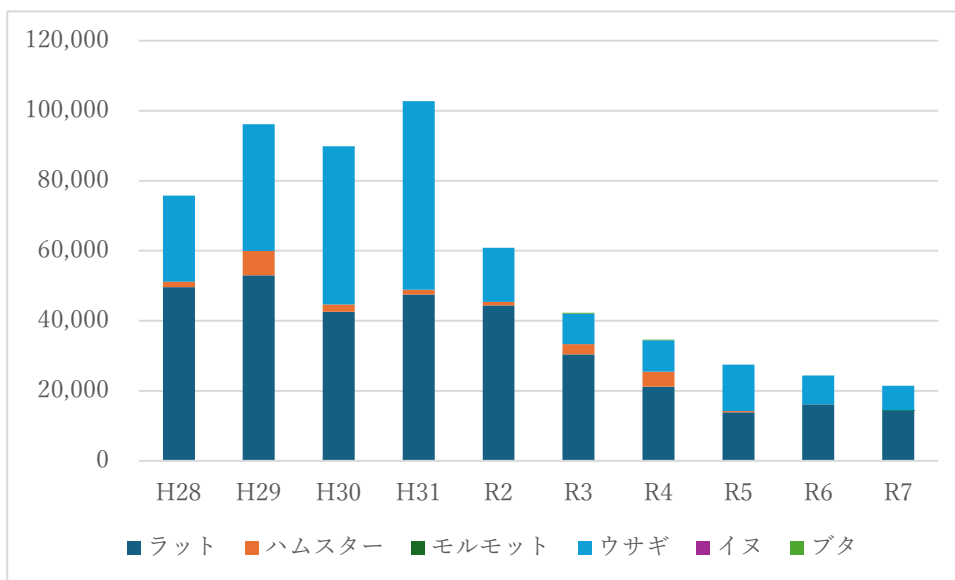


図6 動物飼育数 (マウスを除く)

(3) センター利用者の業績

ユーザー業績は、一般運営費の大幅削減が実施された平成28年度の翌年度(平成29年度)より、前年および前々年と比較してユーザー業績数(外部研究費を除く)の減少が確認できる(表2、図7)。しかしながら、センター利用実績数は例年とほぼ変動がないため、センターユーザーの教育・研究活動およびセンター利用は依然活発であり、それらユーザーの教育・研究においてセンターが一定の貢献を果たしていると言える。ユーザー業績数は令和2年度に最も増加し、その後減少している。特に令和6年と7年は学会発表数が大きく減少しており、令和3年度以降の業績数の減少は参照元データのデータ登録状況の影響を受けている可能性が考えられる。特に令和6年度は佐賀大学における研究業績の登録が「教員活動データベース」から「researchmap」に移行したことが大きく影響していると推察されるため今後は業績データの利用を停止することを検討中である。恐らくは researchmap 移行後に各種業績情報が未入力となっていると予想される。実際には多くの論文や学会発表等に貢献していることはこれまでの業績数を考慮すると間違いないと考える。学会発表などの研究業績には多くの学生(博士・修士課程、および学部学生)が関与しているため、センターの支援業務は本学の研究教育に貢献しているといえる。

一方で、外部資金獲得件数および総額においては大きく増加傾向にある(図7、図8、図9)。これは各ユーザーの努力の賜であり、センターが直接関与しているとは言い難い。しかし、総括でも述べたように、センターは一部の研究分野において必須となる大型機器および実験動物を管理していることから、ユーザーの外部資金獲得に必須とも言える研究業績に対して、センターの管理運営が基盤的役割を担っていることは明らかである。

現在も運営費削減が継続されているため、今後も注意深くユーザー利用状況を確認し、支援センターとして本学の研究教育に貢献する方策を検討することが重要である。

表2 センター利用者の業績・外部資金獲得の推移

		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
業績	著書	30	27	29	25	55	70	52	41	9	10
	学術論文	315	246	240	329	528	427	302	271	186	326
	総説・解説・その他	63	35	48	122	165	133	83	61	121	0
	学会発表など	1,209	872	962	1,158	1,393	1,048	821	504	186	270
	受賞	8	8	5							
	症例報告	43	58	52							
外部資金	件数	116	42	147	125	139	118	237	166	174	243
	総額	201,966	78,343	234,724	199,418	200,097	152,706	156,527	170,048	165,997	181,455

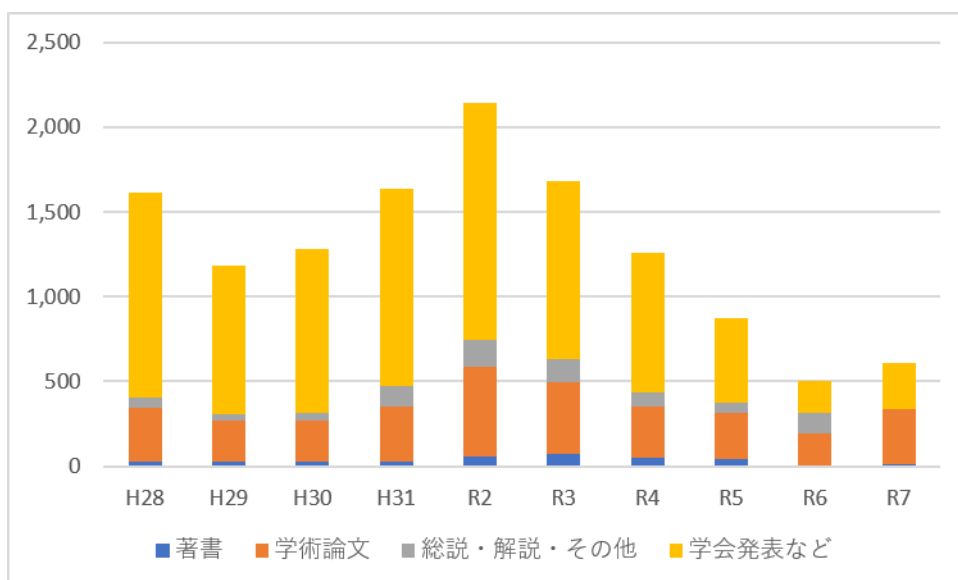


図7 センター利用者の業績の推移

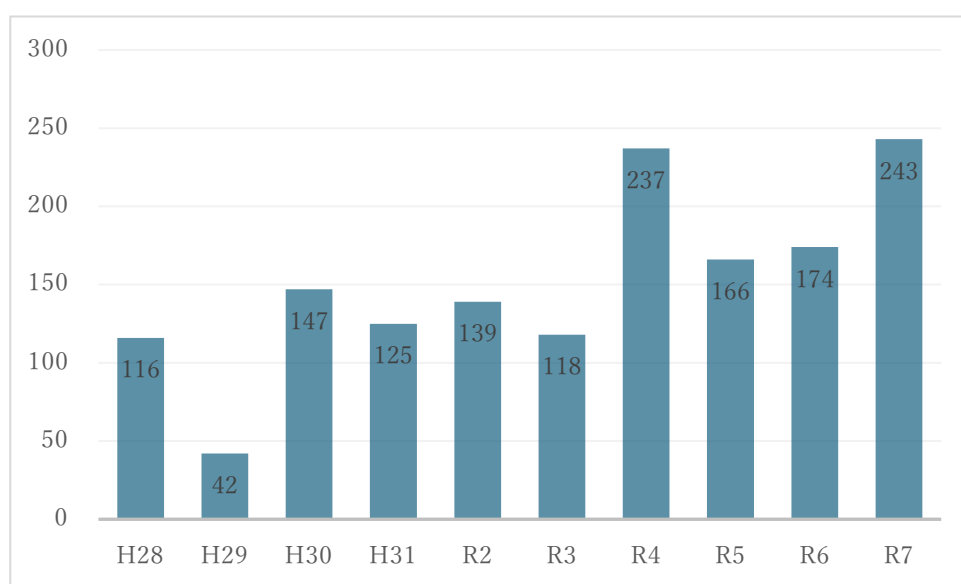


図8 センター利用者の科研費獲得件数の推移

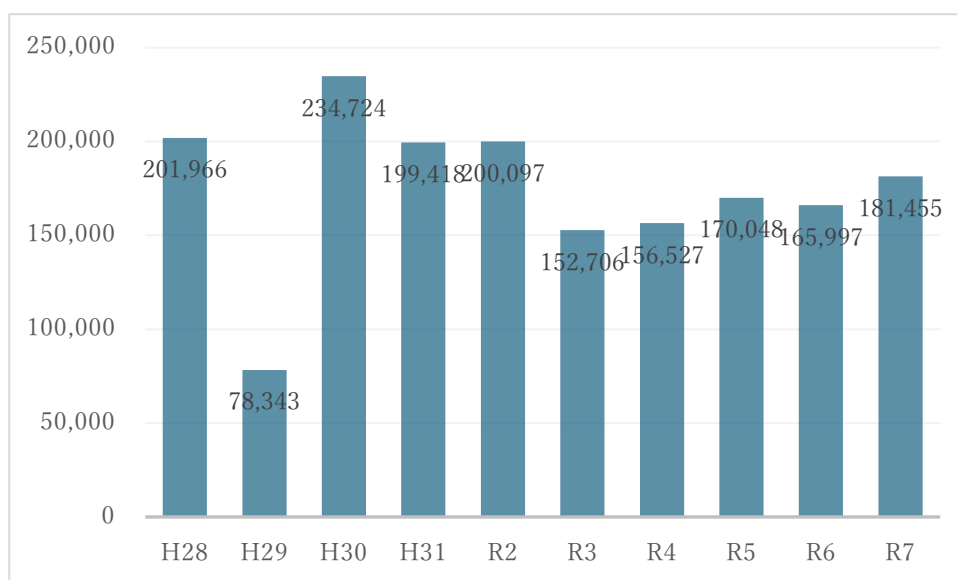


図9 センター利用者の科研費総額の推移 (単位: 千円)

(4) センター施設及び設備・機器利用実績

■ 施設利用者数

施設	のべ利用者数	備考
動物実験施設	12,461	登録者数 教職員137、学生26
鍋島地区機器分析部門	61,309	登録者数 教職員173、学生57
鍋島地区RI実験施設	3,166	登録者数 教職員62、学生53
本庄地区生物資源開発部門	282	
本庄地区機器分析部門	5,439	登録者数 教職員97、学生317

■ 機器利用実績(鍋島地区機器分析部門)

機器	のべ利用回数	備考
基2F製氷機・低温室	3,321	入室回数
基3F製氷機・低温室	6,698	入室回数
基4F製氷機・低温室	1,615	入室回数
透過型電子顕微鏡 JEM-1400	124	利用回数
クライオスタット NX-50	82	利用回数
ウルトラミクロトーム ライヘルト	0	利用回数
ナイフメーカー EM-25A	0	利用回数
凍結乾燥機 ID-2	0	利用回数
パラフィン溶融器	0	利用回数
真空恒温器 DP-41	18	利用回数
P1・P2培養室	4,934	入室回数
フリーザー室 1、2	1,428	入室回数
エレクトロマシニング	295	入室回数
セミナー室	888	入室回数
細胞自動解析装置 FACSVerse	365	利用回数
細胞自動解析装置 MACSQuant	208	利用回数
セルソーター MA900	125	利用回数
pHメーター F-55S	36	利用回数
超音波洗浄機	1	利用回数
超音波破碎機 UD200	43	利用回数
電子天秤 TXB6201L	3	利用回数
電子天秤 R200D	13	利用回数
微量高速遠心機 MX-305	60	利用回数
遺伝子導入装置 NEPA21	5	利用回数
液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-8030	103	利用回数
高速液体クロマトグラフ Prominence	5	利用回数
共焦点レーザー走査型蛍光顕微鏡 LSM880+Airyscan Fast	150	利用回数
蛍光画像解析ソフトウェア Imaris	42	利用回数
正立蛍光顕微鏡 AxiolmagerM2+Apotome.2	110	利用回数
倒立蛍光顕微鏡 ECLIPSE Ti2	43	利用回数
自動現像機 CEPROS Q	189	利用枚数
トランスイルミネーター	0	利用回数
ゲル撮影装置 AE-6933FXCF	290	利用回数
オートクレーブ LSX-500 ②③	87	利用回数 (2台合計)
乾熱滅菌機 SG-62 ①②	12	利用回数 (2台合計)
蒸留水製造装置 GlassStill8	3,518	採水量 (リットル)
超純水製造装置 Milli-Q EP7000	662	採水量 (リットル)
DNAシーケンサー SeqStudio ①②	1,290	RUN数 (2台合計)
リアルタイムPCR QuantStudio 3	231	利用回数
リアルタイムPCR QuantStudio 6 Pro	203	利用回数

デジタルPCRシステム	728	ウェル数
PyroMark Q24	39	利用回数
PyroMark Q48 Autoprep		利用回数
ナノ・ドロップ	397	利用回数
DNA・RNA定量装置 Qubit 4 Fluorometer	3	利用回数
サーモサイクラー T-GRADIENT	30	利用回数
サーマルサイクラー PCR 2720	72	利用回数
PCR GeneAmp 9700	72	利用回数
紫外線架橋機 ストラータリンカー	0	利用回数
恒温振盪器 G-25	0	利用回数
振盪培養器 E25R	2	利用回数
卓上遠心エバポレーター miVac Duo	21	利用回数
高速冷却遠心機 HP-25	20	利用回数
卓上破碎機 シェイクマスター ネオ	19	利用回数
多本架冷却遠心機 LX-141	35	利用回数
多本架冷却遠心機 AX-511	152	利用回数
卓上型分離用超遠心機 Optima-TLX	0	利用回数
分離用超遠心機 Optima L-70	1	利用回数
凍結乾燥機 FDU-2100	0	利用回数
マルチラベルプレートリーダー EnVision	103	利用回数
ケミルミイメージングシステム FUSION FX	493	利用回数
紫外可視分光解析システム DU-640	31	利用回数
バーチャルスライドスキャナ NanoZoomer S60	8,778	利用枚数
画像解析ソフトウェア HALO	148	利用回数
画像解析ソフトウェア HALO AI	135	利用回数
ガスクロマトグラフ GC-2014AF	21	利用回数
IVIS Luminalll	—	利用回数
FlowJo ①②	64	利用回数 (2台合計)
自動分注機 Andrew +	0	利用回数
キャピラリーウェスタンシステム Abby	8	利用回数
マイクロCT SkyScan1276	97	利用回数
3Dプリンタ Raise3D Pro3 Plus HS	86	利用回数 R7年1月導入

■ 機器利用実績(鍋島地区 RI 部門)

機器	のべ利用回数	備考
ガンマセル 4 0	19	利用回数
ベータプレート	0	利用回数
バイオイメージアナライザー	0	利用回数
液体シンチレーションカウンタ	7	利用回数
オートガンマカウンタ	0	利用回数
X線照射装置	3	利用回数
吸光マイクロプレートリーダーMULTI SKAN FC	234	利用回数 R3年10月導入
GM測定装置SCALER TDC-521	0	利用回数 R3年10月導入
オートクレーブ LSX-500 ①	1	利用回数 R3年7月鍋島機器から移設

■ 機器利用実績(本庄地区機器分析部門・生物資源開発部門)

機器	のべ利用回数	備考
電子スピン共鳴装置 JES-FA300	9	のべ利用回数
紫外可視分光光度計 V-630	150	のべ利用回数
振動式デジタル密度・音速計 DSA 5000	-	R4廃棄
蛍光光度計 FP-6200	41	のべ利用回数
ゼータ電位・粒径測定システム ELSZ-2	280	のべ利用回数
紫外可視近赤外分光光度計 Lambda 900	1	のべ利用回数
CCD単結晶自動X線構造解析装置 Saturn 724+	7	のべ利用回数
3DマイクロX線CTCT Lab GX130	29	のべ利用回数
エネルギー分散型蛍光X線分析装置 EDX-800HS2	45	のべ利用回数
水平型 X 線構造解析装置 XRD-7000	216	のべ利用回数
原子間力顕微鏡 SPA400	5	のべ利用回数
ガスクロマトグラフ質量分析計 JMS-GCmatell	5	のべ利用回数
ガスクロマトグラフ GC-2014	30	のべ利用回数
ガスクロマトグラフ質量分析計 7890/5975C	-	のべ利用回数
シーケンシャル型高周波プラズマ発光分光装置 Optima 5300 DVZ	37	のべ利用回数
走査型電子顕微鏡 SU-1500	-	のべ利用回数
電子スピン共鳴装置 ELEXSYS E580	-	のべ利用回数
フーリエ変換赤外分光光度計 VERTEX-70	325	のべ利用回数
蛍光寿命測定装置 OB920	0	のべ利用回数
絶対 PL 量子収率測定装置 Quantaaurus-QY	25	のべ利用回数
高分解能核磁気共鳴装置 NMR 400MHz system	936	のべ利用回数
SQUID 磁束計 MPMS-XL5minACH	-	のべ利用回数
パッチクランプイオンチャンネル計 AxoPatch 1D/2008	1	のべ利用回数
円偏光二色性分散計 J-820	141	のべ利用回数
旋光計 DIP-370	-	のべ利用回数
原子吸光分光光度計 AA-7000	145	のべ利用回数(R2鍋島機器より移
マイクロ天秤 MCA6.6S-2S01	41	のべ利用回数
オートファインコータ JFC-1600	133	のべ利用回数
3D 解析ソフトウェア VGSTUDIO MAX 欠陥・介在物モジュール	25	のべ利用回数
分光蛍光光度計 F-7000	59	のべ利用回数
DNA shearing システム (断片化装置) M220	0	のべ利用回数
DNA・RNA 定量装置 Qubit 3.0	92	のべ利用回数
プレスサーセル (フレンチプレス) 5501	-	のべ利用回数
新型旧世代 DNA シーケンサー	163	のべ利用回数
ルミノ・イメージアナライザー LAS-3000	22	のべ利用回数
高感度ルミノメーター GloMax 20/20n Luminometer (E5311)	-	のべ利用回数
配列解析ソフトウェア CLC Main Workbench	-	のべ利用回数
細胞培養試験室	1	のべ利用回数
高分解能核磁気共鳴装置 AVANCE NEO	842	のべ利用回数
ガスクロマトグラフ質量分析計 GCMS-QP2010 Ultra	58	のべ利用回数
液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-2020	15	のべ利用回数
近赤外分析計 NIRFlex N-500	-	のべ利用回数
示差走査熱量計システム DSC Q200	109	のべ利用回数
物性測定装置 PHEONER II RE2-33005B	68	のべ利用回数

味認識装置 TS-5000Z	65	のべ利用回数
超純水製造装置 Direct-Q UV3	156	のべ利用回数
蒸留水製造装置 WS220	47	のべ利用回数
走査型電子顕微鏡 JSM-6510	162	のべ利用回数
オートクレープ LSX-300	129	のべ利用回数
天秤 AUW120D	106	のべ利用回数
ディープフリーザー	4	のべ利用回数
ガスクロマトグラフ質量分析計 7890B・5977A	43	のべ利用回数
液体クロマトグラフ・飛行時間型質量分析計 G6224AA	-	のべ利用回数
共焦点レーザー顕微鏡 C1-Plus-SNF	-	のべ利用回数
走査型電子顕微鏡 S-3400N	89	のべ利用回数
高速液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-8045	39	のべ利用回数
リアルタイムPCR	437	のべ利用回数
正立顕微鏡 (Zeiss)	52	のべ利用回数
プレートリーダー	214	のべ利用回数
倒立顕微鏡 (THUNDER)	73	のべ利用回数
ホログラフィック顕微鏡	2	のべ利用回数

■ リサイクルファシリティ

機器	台数	年月日
偏光顕微鏡	1	R7.4.14

(5) センター教職員による業績及び外部資金

■ 原著論文

著者名	題目	雑誌名,巻,号,頁
Marina Ishida, Alisa Pattarapisitporn, Noriko Ryuda, Seiji Noma	Valorization of Grapefruit Juice Extraction Residue Using Pectin Extraction, Cellulose Purification, and Sonication.	Appl. Sci., 15, 24, 13280 (2025)
Takashi Matsumura, Masasuke Ryuda, Hitoshi Matsumoto, Takumi Kamiyama, Kyoko Jinnai, Shu Kondo, Akira Nakamura, Yoichi Hayakawa, and Ryusuke Niwa	Stress-induced organismal death is genetically regulated by the mTOR–Zeste–Phae1 axis	Proceedings of the National Academy of Sciences, e2427014122(2025), vol. 122, no. 37

■ 総説・著書

著者名	題目	雑誌名,巻,号,頁
兒玉 宏樹	栄養塩含有廃棄物の水溶性処理による農業循環利用促進	日本工業出版株式会社 「クリーンテクノロジー」 2026年6月号

■ 招待講演・特別講演

発表者	題目	学会（会議等）名
河端 万葉	佐賀大学動物実験施設および総合分析実験センター技術職員の取り組みの紹介	第43回九州実験動物研究会総会・第48回日本実験動物技術者協会九州支部総会 合同佐賀大会 (2025)
松久 葉一	ノックアウトウサギの利用の実際	第7回日本ウサギバイオサイエンス研究会
龍田 勝輔	昆虫の味覚による摂食・産卵行動の制御	第43回九州実験動物研究会総会、第48回日本実験動物技術者協会九州支部総会 合同佐賀大会 2025年11月15、16日 佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター「アバンセ」

■ 一般講演

発表者	題目	学会（会議等）名
Muhammad Yudha Syahputra, Erika Shinchi, Masato Tominaga	Cellulose-Based Caffeine Sensor for Practical and Simple Applications	2nd International workshop of the bioelectrochemical society
松久 葉一, 河端 万葉, 北嶋 修司	精神的ストレスによるマウス血小板機能変化	第72回日本実験動物学会総会
松久 葉一	慢性ストレスがマウス血小板機能に及ぼす影響	第41回日本ストレス学会学術総会
栗山恵輔・徳山由佳	3Dプリンタによる支援体制の再構築と活用例の紹介	九州地区総合技術研究会2026 in 琉球大学
森加奈恵, 新地姉理華, 栗山恵輔	Pythonを使った測定データ解析の第一歩	2025年度 埼玉大学 機器・分析技術研究会
森加奈恵	質量分析にまつわるQ&A	第33回質量分析技術者研究会例会
龍田典子	土壌教育教材の作成～土壌団粒の模型作成トライアル～	日本土壌微生物学会2025年度大会
Fumio Yano, Yudai Ogawa, Masasuke Ryuda and Makoto Tokuda	Which factors influence reproductive mode shifts in paedogenetic gall midges?	日本生態学会第73回大会（2026年3月、京都）
Takashi Matsumura, Masasuke Ryuda, Hitoshi Matsumoto, Takumi Kamiyama, Shu Kondo, Yoichi Hayakawa, Ryusuke	Stress-induced organismal death is genetically regulated by the mTOR-Zeste-Phae1 axis	第98回日本生化学会大会 2025年11月5日
西山奈穂、兒玉宏樹	未利用バイオマスを用いる可給態鉄供給資材の調製手法の開発	日本腐植物質学会 第41回講演会 (10月25日(土)～10月26日(日)) 岡山理科大学 50周年記念館)
兒玉征都 ¹ 、久富凌羽、兒玉宏樹	滴定三次元蛍光法による落ち葉アルカリ抽出物の変性過程温度依存性の検証	日本腐植物質学会 第41回講演会 (10月25日(土)～10月26日(日)) 岡山理科大学 50周年記念館)
兒玉宏樹	栄養塩含有廃棄物の水溶性処理による農業循環利用促進 Promoting agricultural recycling	大学見本市2025～イノベーション・ジャパン 令和7年8月20日～令和7年8月22日 東京ビッグサイト 西展示棟
兒玉宏樹	産業廃棄物（廃石膏、鶏糞等）の溶解性改善による農業への循環利用促進	SAGA TSUNAGI コンベンション 2026.03.26 ガーデンテラス佐賀ホテル＆リゾート (3階 グランドテラス)

■ 外部資金

代表者氏名	補助金（研究助成）等の名称	種目	研究課題等	交付金額（千円）
龍田典子	新素材創出推進プラットフォーム放射光活用研究	助成金	「土壌」の構造を教える教育教材の作成	125
龍田勝輔	新素材創出推進プラットフォーム放射光活用研究	助成金	昆虫外部感覚子および内部組織形態の観察	190
兒玉宏樹	佐賀県Tsunagi project	受託研究	陶磁器製造業から排出される廃石膏の農業分野での有効利用に	1,980
兒玉宏樹	学術コンサルティング	学術コンサルティング	鑄造の脱型技術に活用するための「鑄造用石膏を溶解する化学的方法」についての技術指導	60
兒玉宏樹	共同研究	共同研究	鑄造の脱型技術に活用するための「鑄造用石膏を溶解する化学的方法」についての技術指導	200
兒玉宏樹	JKA 機械振興部関する研究補助	受託研究	難溶性リン酸廃棄物の水溶化及び難溶化防止資材調製装置の開発	5,000
兒玉宏樹	共同研究	共同研究	鉄理論による藻場育成プランテーションシステムの試作開発	50